

# 陰茎亀頭体部間包皮結合索の1例

中 角 尚 誉, 今 井 克 忠

陰茎亀頭と体部の間を結合する索状物が形成された珍しい症例を経験したので報告する。

## 症 例

患者：21 歳，男，学生

初診：1990 年 6 月 11 日

主訴：陰茎亀頭と体部を結ぶ結合索の疼痛

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：中学生時より陰茎包皮の異常に気付いていたが放置。勃起時つっぱることはなかった。平成 2 年 6 月上旬，性交時同部に出血を認め，その後疼痛が続くため，平成 2 年 6 月 11 日当科外来を受診した。亀頭包皮，排尿障害尿路感染症の既

往もない。

現症：全身的には理学所見に異常はない。局所所見は，亀頭 9 時の位置で幅 1 mm 長さ 6 mm の包皮片が陰茎体部と亀頭外尿道口部に橋渡しをしており，これはやわらかくて伸展性に富んでいる。この包皮片の中程に長さ 1 mm 程の発赤した部分を認めた。

経過：経口抗生剤を投与したところ発赤は約 1 週間で軽快し，平成 2 年 7 月 11 日手術を目的として入院となった。

検査：血液，生化学検査共，異常を認めなかった。又，尿道膀胱造影，IVP にも異常所見は認めなかった。

手術：7 月 12 日腰椎麻酔下に手術を行った。包皮索状物を切除し，両断端を 6-0 デキソンで，それぞれ 2 針ずつの結節縫合で閉鎖した。

摘出標本：1×6 mm の皮膚片であった。

組織所見：epidermis に覆われ，中心部に Capillary, lymphatic vessel を見る索状物であり包皮の一部との診断であった。

術後経過：術後経過は順調であった。

## 考 察

本症例の様に陰茎亀頭と体部が，包皮片により結合している所見は，きわめてまれで我々の調べ

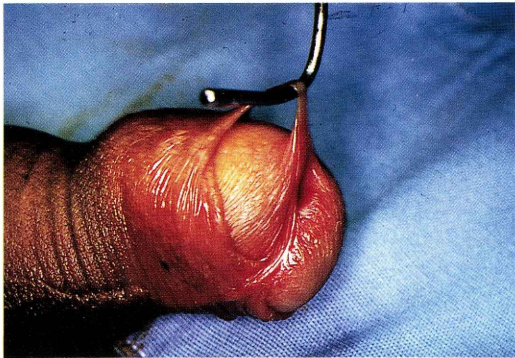


図 1.

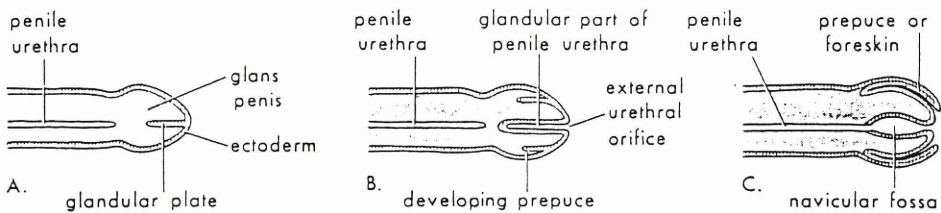


図 2. 包皮及び前部尿道の発達

A, 胎生 11 週. B, 胎生 12 週. C, 胎生 14 週. 文献 4. Moore, K.L.: the developing human より引用。

得た限りでは、友吉・中村(1979)<sup>1)</sup>、朴・友吉(1980)<sup>2)</sup>、熊木・江尻(1987)<sup>3)</sup>が報告しているにすぎない。発生原因としては、炎症による癒着の後遺症と、先天的なものが考えられるが<sup>1)</sup>、本症例の場合、組織学的所見から炎症の後遺症でなく先天的なものであると思われる。

包皮は、胎生12週のとき陰茎の先端より発達し、14週のとき亀頭を殆ど覆う。通常この包皮と亀頭の間が完全に分離するが(図2)本症例の場合、分離が局所的に停止したものである<sup>1)</sup>。

症状は無症状のものもあるが<sup>1,2)</sup>勃起時、突張りのあるもの<sup>3)</sup>や、本症例の様に性交時、出血を認めたものもある。治療は索状物切除が行われている。

## ま と め

陰茎亀頭と体部の間を結合する索状物が形成さ

れた症例を報告し、若干の考察を加えた。

本論文の要旨は第203回日本泌尿器科学会東北地方会において発表した。

## 文 献

- 1) 友吉唯夫, 中村隆彦: 陰茎亀頭・体部間包皮結合索の1例, 泌尿紀要 **25**: 947-948, 1979.
- 2) 朴 勺・友吉唯夫: 陰茎亀頭・体部間包皮結合索の1例, 泌尿紀要 **26**: 1435-1436, 1980.
- 3) 熊木 修・江尻 進: 陰茎亀頭・体部間包皮結合索の1例, 日泌会誌 **78**: 561, 1987.
- 4) Moore, K.L.: the Developing Human, 2nd. ed., p. 240~242, W.B. Saunders, Philadelphia-London-Toronto, 1977.